

【国語科】

思考力を高める説明的な文章の授業モデル

長期研修 研修員 大高 幸子 竹淵 深山

研究の内容

1 国語科における思考力

(1) 国語科で育てる学力

国語科における学力は、学習指導要領の「国語科の目標」に示されている「適切に表現し正確に理解する能力」「伝え合う力」「思考力」「想像力」「言語感覚」「国語に対する関心」「国語を尊重する態度」といった資質・能力を総合したものにとらえることができる。図1は、国語科の目標を基にした学力を整理したものである。

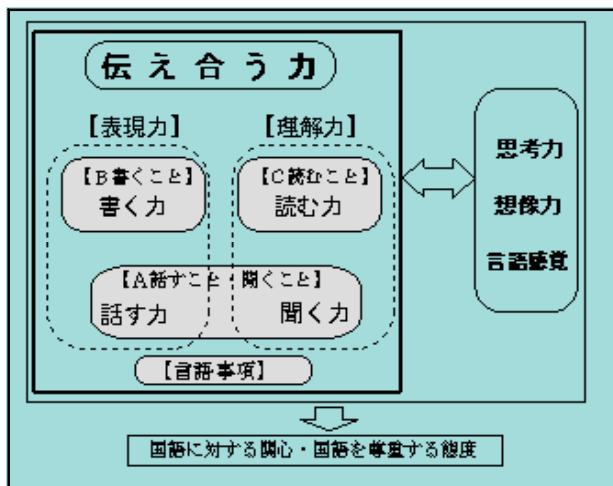


図1 国語科の目標を基にした国語科の学力

(2) 国語科における思考力の定義

『小学校学習指導要領解説 国語科編』では、国語科の目標に関する解説の中で、思考力を「言語を手がかりとしながら論理的に思考する力」と規定している。さらに、この思考力は、「表現力や理解力と相互に支え合う関係にある力である」としている。そこで、国語科における思考力は、表現力と理解力の両側面からとらえる必要があると考えた。しかし、本研究では、研究の焦点化を図るために、理解力の側面に絞って思考力をとらえることとし、児童生徒が多様な言語情報に触れて内容理解を深めていく際の思考力について、次のように定義した。

言語情報に主体的に働きかけ、情報の内容を正確に理解したり、そこから自分なりの意味を生み出したりするとともに、そこで新たに生まれた考えや気持ちを言語化する力

(3) 理解力の側面からとらえた思考力の要素

本研究は、定義した思考力を授業の中で高めるための授業モデルを構築することが主眼である。そこで、思考力を、児童生徒が教材と出会ってからの学習の深化に即した次の【A】～【E】の要素に分けてとらえることとした。

<理解力の側面からとらえた思考力の要素>

- 【A】言語情報への主体的な働きかけ
- 【B】言語情報の正確な把握
- 【C】言語情報と生活体験との関連付け
- 【D】既有的知識や体験に基づく言語情報の評価
- 【E】新たな思考の生み出しと言語化

以下に各要素の概要を述べる。

【A】言語情報への主体的な働きかけ

言語情報と出会った際に、その言語情報に対して興味・関心を抱くとともに、その言語情報が内包する課題性に気付くことである。

【B】言語情報の正確な把握

言語情報について、何がどのように表現されているかを正確に把握すること、内容的な事実認識とともに、筆者の意図を自分なりに考えることである。

【C】言語情報と生活体験との関連付け

言語情報から得た情報内容を、既習内容や自らの生活体験と関連付け、対比したり重ねたりして理解を深めることである。

【D】既有的知識や体験に基づく言語情報の評価

言語情報の内容について、それらが自分たちにどのように生かせるのか、そもそも真実なのかを評価することである。また、表現方法が適切であるかどうかといったことも評価の対象となる。

【E】新たな思考の生み出しと言語化

【A】～【D】を経ることで、児童生徒の中に、新しい知識や価値観、見方や考え方が生み出さ

れ、思考が拡大することとなる。

また、漠然と考えただけでは、論理的な思考になり得ない。自ら考えたことを何らかの形で言語化することにより、論理的に整理され、まとめられることになる。

2 説明的な文章の授業モデル



(1) 授業モデルの基本的な考え方

理解力の側面から思考力を高めようとする場合、「A 話すこと・聞くこと」及び「C 読むこと」の両領域の学習活動がかかわってくる。そこで、この両領域の各種教材の中から、前項で示した思考力の要素を具現化する授業モデルをより明確に示すことができるように、説明的な文章の指導に焦点化して、授業モデルを示すこととした。

本研究では、国語科における思考力を段階的な要素に分けてとらえたわけであるが、これらの各要素は、児童生徒が一つの教材文の読解を行う学習過程に位置付けることができる。そこで、説明的な文章の学習における思考力育成のための授業モデルを表1のようにまとめた。

なお、この授業モデルでは、思考力の各要素を各学習場面でより明確に具現化する意図から、指導過程の工夫そのものを指導の工夫ととらえた。この指導過程は基本的には課題解決的な読解の過程であり、「つかむ」「深める」「まとめる」という各過程で、児童生徒が、主体的に教材文に働きかけ、自らの問題意識を明確にして読みを深めていけるようにすることで、思考力を段階的に高められるように意図したものである。

表1 説明的な文章の授業モデル

過程	思考力の要素	指導の工夫
つかむ	<p>[A] 言語情報への主体的働きかけ</p> <p>学習課題を把握する段階で、内容の事実把握が行われ、【B】の要素もこの過程に位置付けられるべきであるが、各要素の学習過程上での位置付けをより明確にするためここには位置付けていない。</p>	<p>教材の文章と出会う場面で、児童生徒が、できる限りその文章に興味・関心をもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>テーマに関する多様な情報（写真や図書資料等）を準備したり、ビデオや新聞記事を紹介したりする。あるいはテーマに関して事前の話し合いを行わせたりする。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; border-radius: 10px;"> <p>これは、前から気になって詳しく知りたかったことだわ。内容をじっくり読んでみたいな。</p> </div> </div> <p>内容を読み深めるための課題意識や、筆者の論点や論じ方に関する課題意識を引き出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>題名から内容を予想させたり、筆者の意図を考えさせたりする。 初読段階での感想をまとめさせたり、概要を把握させたりする。 題名や序論から、筆者が問題点として提起している事柄を見い出させるとともに、そこから結論を見通して教材を読むための課題をつかませる。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; border-radius: 10px; width: fit-content;"> <p>筆者はこんな題名をつけているけど、その意図は一体何だろう？</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>最初の序論で、このような問題提起をしている。ということは、どんな内容を筆者は述べようとしているのだろうか？</p> </div>



筆者が結論として述べたいことはだいたい分かったわ。こんな結論にたどりついた筆者の考えを詳しく読み取っていこう。

深
め
る

**【B】
言語情報の正確な
把握**

(【E】も付随的に
位置付けられる)

全体の段落構成に留意しながら、課題に関する具体的な記述内容を読み取り、要点をまとめさせる。
筆者の意見とその意見の論拠となっている事例とを整理したり、それぞれについて内容的に類別したりさせる。

要旨とのかかわりでキーワードやキーセンテンスに気付かせる。
筆者が特に強調したり繰り返したりしている表現に気付かせる。
挿絵や写真、表やグラフと本文とを関連させて内容を把握させる。
事例として取り上げている事柄と、そこから引き出されている筆者の考えとを類別させる。 など



結論部分の筆者の主張につながりそうな考え方が、この段落とこの段落に、こんな風に強調されているな。



問題として取り上げたことについて、筆者はこんな事例を取り上げているわ。

この部分で筆者が述べようとしていることは、一緒に載っているグラフと重ねると、よく分かるね。

**【C】
言語情報と生活体験との関連付け**

(【E】も付随的に
位置付けられる)

記述内容について、自分たちの生活体験や学習経験と対比しながら、具体的にイメージ化を図ったり、その関連性について考えたりさせる。

読み取った内容について、他教科での学習や学校での活動、生活体験などどのような関係があるか考えさせる。

ここで問題になっていることは、学校で取り組んできた環境学習で勉強したことと、とても関係があります。



筆者がここで述べていることは、これからの自分たちの生活にとっても大きくかかわってくることで、みんなで考えなければならない問題です。

【D】
既有的知識や体験
に基づく言情報の評
価

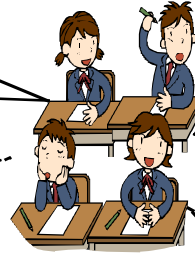
(【E】も付随的に
位置付けられる)

記述内容について、自分なりの立場でその的確性や必要性について吟味し、必要に応じて内容を再構成したり、批評したりする。

筆者の意見が実際に自分たちにどのように役立つものなのかということや、これまでの経験から正しい情報といえるかどうかを考えさせる。

筆者の意見を述べるために使っている事例は、内容やその使い方が適切であるかということや、論の展開は分かりやすく妥当であるかといったことを考えさせる。

今、世界中で起こっている環境問題の解決に、この筆者の提案は生かせそうだね。



ここで挙げられている具体例は、とてもわかりやすく、筆者の主張にうまくつながっているね。

でも、実際にこんなことが可能なのかな。これからみんなで考えを出し合えば、もっといい方法がありそうに思うけど。

筆者は自分の意見をこの順番でまとめようとしているけど、違う説明の順番もありそうだな。

ま
と
め
る
【E】
新たな思考の生み
出しと言語化

結論に対する自分なりの考えをまとめ、発表・交流する。

読み取った筆者の主張に対する自分の考えを、感想を交えて意見文としてまとめる。

読み取ってきたことに新たな情報や自分の考えを付加して、プレゼンテーションをしたり、ホームページ上に掲載したりする。

読み取りを通して考えた中から、問題点を見付け、意見交換を行う。



この文章を読んだら、筆者がなぜこのような主張をしようとしているか、よく分かったね。

この文章で、筆者が取り上げた資料についてさらに詳しく調べてみたら、こんな事実も分かりました。やはり、この問題をもっと真剣に考える必要があると思います。



今まで知らなかったことをこの文章を知ることができました。皆さんはいかがですか。そして、この問題をどのように考えますか。

